

予 算 要 求 資 料

令和8年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：林業費 目：林業振興費

事業名 森と木と水の環境教育推進事業費補助金

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

林政部 森林活用推進課 森林吸収源対策室 電話番号：058-272-1111(内4349)
緑化推進係

E-mail : c11513@pref.gifu.lg.jp

1 事 業 費 24,750 千円 (前年度予算額： 24,750 千円)

<財源内訳>

区分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使 用 料 手数料	財 産 収 入	寄 附 金	そ の 他	県 債	一 般 財 源
前年度	24,750	0	0	0	0	0	24,750	0	0
要求額	24,750	0	0	0	0	0	24,750	0	0
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

「ぎふ木育30年ビジョン」に基づき、地域の自然を学び親しむ活動や森林づくり等の活動を体験する「緑と水の子ども会議」の開催や、市町村が主体となって幅広い世代を対象に行う森林環境教育を行う。

(2) 事業内容

①学校提案事業

- ・補助対象者：市町村、学校法人、国立大学法人等
- ・補助率等：10/10（上限500千円（1メニュー当たり上限150千円））
- ・補助対象経費：学校独自で企画する環境教育活動等経費

②市町村企画事業

- ・補助対象：市町村
- ・補助率等：補助対象経費が2,000千円以下の部分は10/10以内、
補助対象経費が2,000千円を超える部分は1/2以内
但し、1事業当たり500千円を下限、5,000千円を上限
- ・補助対象経費：市町村が自ら企画する事業に要する経費

(3) 県負担・補助率の考え方

清流の国ぎふ森林・環境基金充当

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
補助金	24,750	
合計	24,750	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

第4期岐阜県森林づくり基本計画

3 森林の新たな価値の創造と山村地域の振興

(1) 森林空間を活用した森林サービス産業の育成による山村振興

(イ) 「ぎふ木育30年ビジョン」の実現に向けた「ぎふ木育」の新たな展開

(c) 既存施設・団体等との連携と新たな施設の整備

(2) 国・他県の状況

森林環境税は、37府県で導入している。

(3) 後年度の財政負担

課税期間である令和8年度まで税収に応じて事業を実施。

(4) 事業主体及びその妥当性

市町村、学校法人、国立大学法人等

「ぎふ木育」を推進する学校独自の取組を支援しており、学校が市町村等と連携し実施していることから妥当である。

県単独補助金事業評価調書

<input type="checkbox"/> 新規要求事業
<input checked="" type="checkbox"/> 継続要求事業

(事業内容)

補助事業名	森と木と水の環境教育推進事業費補助金
補助事業者（団体）	市町村、学校法人、国立大学法人等 (理由) ぎふ木育を効率的、効果的に推進するため
補助事業の概要	(目的) ぎふ木育の推進 (内容) 学校、市町村が独自に企画する取組を支援する。
補助率・補助単価等	定額・定率・その他（例：人件費相当額） (内容) ① 補助対象経費の10/10以内（ただし、1校当たり500千円、1メニューあたり150千円を上限とする） ② 補助対象経費の2,000千円以下の部分は10/10以内、 補助対象経費が2,000千円を超える部分は1/2以内（ただし、1事業当たり500千円を下限、5,000千円を上限とする） (理由) 上限については過去の実績等により算出
補助効果	ぎふ木育の推進
終期の設定	終期令和8年度 (理由) 清流の国ぎふ森林・環境基金事業の終期

(事業目標)

- ・終期までに何をどのような状態にしたいのか
ぎふ木育を推進するため、学校が独自に企画する取組を25校及び市町村が独自に企画する取組を11市町村で実施する。

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (H28)	R6年度 実績	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標 (R8)	達成率
①実施学校数	17	49	25	25	25	196%
②実施市町村数		11	11	11	11	100%

補助金交付実績 (単位：千円)	R4年度	R5年度	R6年度
	18,955	18,639	21,699

(これまでの取組内容と成果)

令和4年度	学校独自に企画する取組が増加し、学校が主体となった「ぎふ木育」を推進することができた。また、市町村企画事業により、学生だけでなく幅広い世代を対象とした木育の推進を図ることができた。
令和5年度	指標① 目標：25校 実績： 29校 達成率：116 %
令和6年度	学校独自に企画する取組が増加し、学校が主体となった「ぎふ木育」を推進することができた。また、市町村企画事業により、学生だけでなく幅広い世代を対象とした木育の推進を図ることができた。
	指標① 目標：25校 実績： 38校 達成率：152 %
	学校独自に企画する取組が増加し、学校が主体となった「ぎふ木育」を推進することができた。また、市町村企画事業により、学生だけでなく幅広い世代を対象とした木育の推進を図ることができた。
	指標① 目標：25校 実績： 49校 達成率：196 %

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)	
3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない	
(評価) 3	既存のメニューでは対応できない学校や市町村独自に企画する取組を支援し、ぎふ木育を推進していることから必要性が高い。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか)	
3：期待以上の成果あり（単年度目標100%達成かつ他に特筆できる要素あり） 2：期待どおりの成果あり（単年度目標100%達成） 1：期待どおりの成果が得られていない（単年度目標50～100%） 0：ほとんど成果が得られていない（単年度目標50%未満）	
(評価) 2	49校及び11市町村が実施し、概ね期待どおりの効果が得られている。
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか)	
2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価) 1	事業主体を市町村等とし、事業の効率化が図られている。

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項
事業の実施地域に偏りがある。また、学校や市町村独自の取組を企画するにあたり、ぎふ木育の学びとして全体をコーディネートできる人材が必要。

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか
引き続き当事業を市町村等に周知し、木育推進に取り組んでいく。また、学校や市町村が企画内容について相談できるよう、森林総合教育センターと連携していく。